

今日のトピック 米国ハイールド債券市場の動向と見通し 引き続き資金流入が見込まれるハイールド債券市場

ポイント1 良好なパフォーマンス

株式に劣らないパフォーマンス

- 米国ハイールド債券指数の上昇率を、16年年初から直近17年1月10日までの約1年間で見ると、+18.9%となりました。なかでもエネルギー・セクターの上昇（同+39.7%）が目立っています。
- この間、英国の欧州連合（EU）離脱選択や米国の大統領選挙をめぐる不透明感の高まりなどから、株価が調整することもありましたが、このような局面でもハイールド債券市場は底堅さを保っています。

ポイント2 危険回避の動きが後退

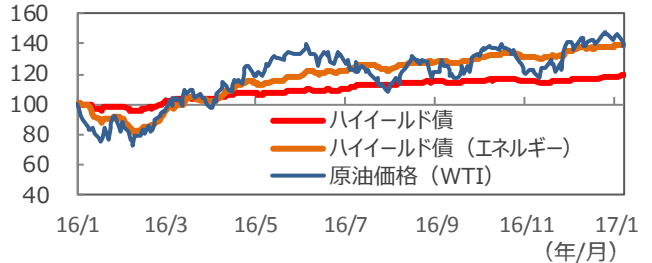
高い利回りが魅力

- 良好なパフォーマンスは、米国、中国経済の持ち直し、原油価格の上昇を受け、リスク回避の動きが後退するなか、ハイールド債券の高い利回りが注目されたためと考えられます。参考までに、1月10日時点のハイールド債券の利回りは5.83%、これに対して米国10年国債利回りは2.38%です。

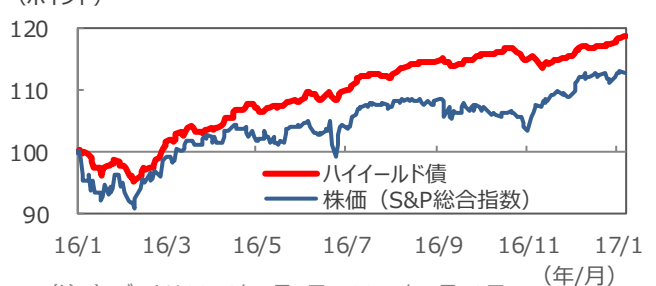
今後の展開 今後も堅調に推移しよう

- 米国、中国経済の持ち直し、産油国間の協調減産の効果により、原油価格は底堅く推移する見通しです。米国の金融政策については、引き締めの方方向にあります。ただ、ドル高の影響などで物価が落ち着いていることから、利上げの速度は緩やかと予想されます。一方、企業のデフォルト率はやや上昇していますが、デフォルト率はもともと景気に遅れて動く傾向が強く、間もなく低下に向かうと見られます。こうした点を踏まえると、今後も高利回りのハイールド債券市場には資金流入が続くと考えられます。

(ポイント) 【米国ハイールド債券指数と原油価格】

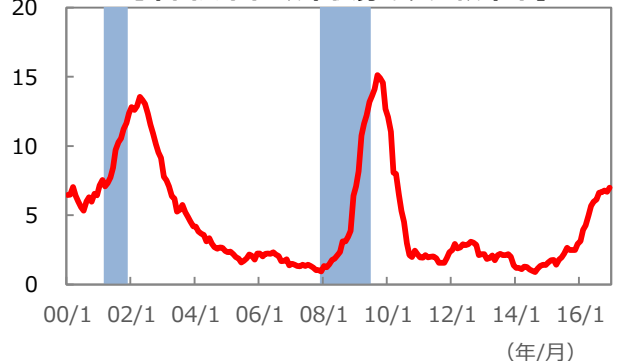


(ポイント) 【米国ハイールド債券指数と米国株式】



(注1) データは2016年1月4日～2017年1月10日。
(注2) 米国ハイールド債券指数はBloomberg Barclays米国ハイールド債券指数。株価はS&P総合指数、原油価格はWTI。すべて2016年1月4日を100として指数化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(%) 【米国ハイールド債券のデフォルト率】



(注) データは2000年1月～2016年12月。網掛は景気後退期。デフォルト率は、過去12カ月間に米国ハイールド市場でデフォルトした銘柄数の割合を発行体ベースで集計したものです。
(出所) BofAメリルリンチのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2017年 1月12日 最近の「シェールオイル」の動向（グローバル）
2016年12月28日 2016年の振り返り（世界の債券市場）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。